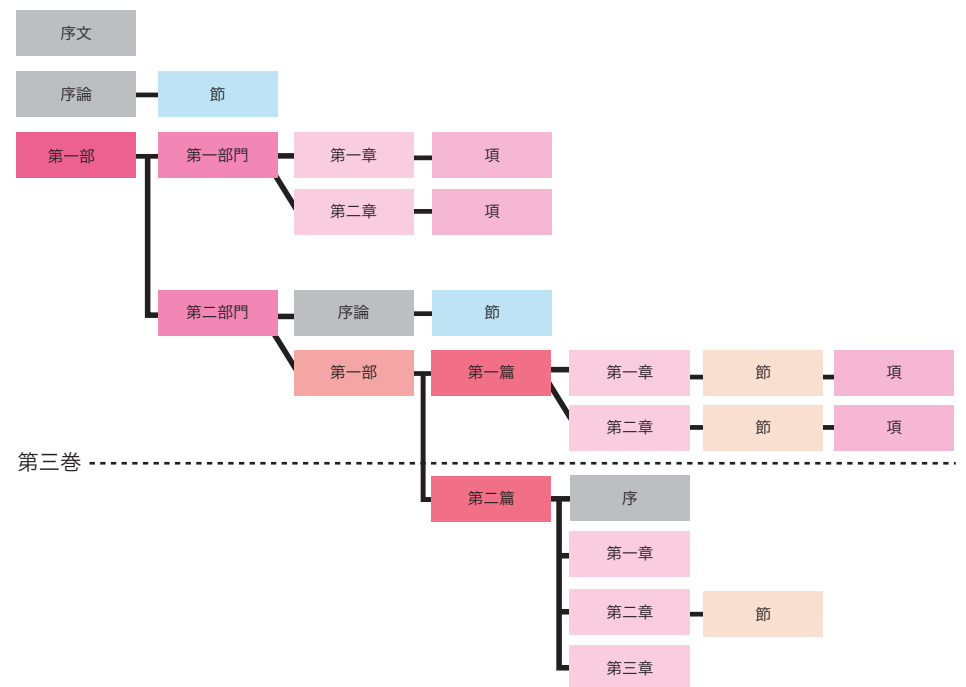


『純粹理性批判』 カント／中山 元・訳

タイトル・リスト 2 第三卷 [2010.09.13]

第一卷／第二卷



第三卷

第一部 超越論的な原理論

第二部門 超越論的な論理学

第二部門の第一部 超越論的な分析論

第二篇 原則の分析論

- 180 一般論理学の理論体系の分類
- 181 一般論理学の分析の考察対象
- 182 超越論的な論理学の考察対象
- 183 理性の試み
- 184 判断力の理論

序 超越論的な判断力一般について

- 185 判断力と実例
- 185n 愚鈍さとは
- 186 理論と批判
- 187 超越論的な哲学の特徴
- 188 判断力の超越論的な理論の構成

判断力の超越論的な理論（あるいは原則の分析論）

第一章 純粋な知性の概念の図式論について

- 189 〈同種のもの〉
- 190 判断力の超越論的な理論の必要性
- 191 超越論的な図式とは
- 192 図式としての時間規定
- 193 図式と図式機能
- 194 概念の図式
- 195 秘められた技術
- 196 図式とカテゴリー
- 197 量の形象と図式
- 198 実在性と否定性の図式
- 199 実体の図式と時間において不変なもの
- 200 原因の図式と時間的な継起
- 201 相互性の図式と時間的な同時存在

- 202 可能性の図式
- 203 現実性の図式
- 204 必然性の図式
- 205 図式と時間規定
- 206 図式と自己統合の意識
- 207 超越論的な真理
- 208 図式とカテゴリーの関係

第二章 純粋な知性のすべての原則の体系

- 209 超越論的な原則とカテゴリー表
- 210 アプリオリな原則の根拠の証明の必要性
- 211 検討から排除される問題点
- 212 分析判断との対比

純粋な知性の原則の体系

第一節 すべての分析判断の最高原則について

- 213 認識一般の消極的な条件
- 214 矛盾律
- 215 分析判断と矛盾律
- 216 矛盾律の限界
- 217 正しくない矛盾律の表現

第二節 すべての総合判断の最高原則について

- 218 超越論的な論理学の課題
- 219 総合判断の真理性
- 220 第三のもの、総合判断の三つの源泉
- 221 空間と時間の意味
- 222 経験の可能性の条件
- 223 純粋な総合判断の客観的な妥当性の根拠
- 224 経験の真理
- 225 すべての総合判断の最高原理
- 226 アプリオリな総合判断を可能にする条件

第三卷

第三節 純粋な知性のすべての総合的な原則の体系的な提示

- 227 自然法則のアプリオリ性
- 228 知性によらないアプリオリで純粋な原則
- 229 数学的な原則
- 230 力学的な原則
- 231 原則表
- 232 数学的な原則と力学的な原則
- 232n 合成と統合の違い

一 直観の公理

- 233 量による同種の多様なものの総合
- 234 外延量とは
- 235 外延量と公理
- 236 内包量についての命題と数式
- 237 理性の〈嫌がらせ〉

二 知覚の先取り

- 238 感覚における内包量
- 239 先取りによる認識とは
- 240 感覚と内包量
- 241 内包量とは
- 242 強度の差異
- 243 〈流れる量〉
- 244 連続量としての現象
- 245 変化についての命題
- 246 知覚の先取りの原則の効用
- 247 この原則の効用の説明
- 248 空虚についての実例
- 249 未解決の問題
- 250 実在的なものの認識の逆説

三 経験の類比

- 251 経験における時間の役割
- 252 時間の三様態
- 253 三つの類比（アナロジー）
- 254 この規則の特徴
- 255 構成的な原則
- 256 統制的な原則
- 257 原則とカテゴリーの関係

A 第一の類比 実体の持続性の原則

- 258 実体の恒存
- 259 〈持続するもの〉の役割
- 260 実体の概念と〈持続するもの〉
- 261 実体の不滅について
- 262 内属と自体存在
- 263 変化と変動
- 264 発生と消滅の逆説
- 265 二つの時間
- 266 〈持続性〉の役割

B 第二の類比 因果関係に基づいた時間的な継起の原則

- 267 変化の概念の確認
- 268 経験の条件としての因果律
- 269 客体とは、真理の条件
- 270 空間の対象の把握と時間の対象の把握の違い
- 271 把握における継起と現象における継起
- 272 出来事の発生の必然的な条件
- 273 〈像のゲーム〉
- 274 生起を経験するための条件
- 275 原因の概念のアプリオリ性

第三卷

- 276 主観的な継起と客観的な継起の区別
- 277 像の客体性
- 278 時間における出来事の順序
- 279 知覚の形式的な条件
- 280 現象の継起と絶対的な時間
- 281 充足理由律〔因果律〕の意味
- 282 充足理由律の証明
- 283 因果関係の同時性という疑念
- 284 コップの実例
- 285 作用の概念の重要性
- 286 実体の持続性の推論
- 287 生起と創造
- 288 変化の形式
- 288n 関係の変化と状態の変化
- 289 変化の実例
- 290 モメントとは
- 291 最小部分の原則
- 292 懐疑の一般原則
- 293 変化の形式的な条件の認識可能性
- 294 因果関係の要約

C 第三の類比 同時存在の原則——これは相互作用または相互性の法則にしたがう。

- 295 同時存在とは——影響と相互作用
- 296 同時存在の条件
- 297 同時存在の知覚可能性
- 298 同時存在を認識する条件
- 299 相互性の意味
- 300 三つの力学的な関係
- 301 経験の類比と時間の関係
- 302 自然を可能にするアプリアリナ法則
- 303 第三の類比の重要な役割
- 303n 世界の統一という概念

四 経験的な思考一般の前提要件

- 304 様態のカテゴリーの特殊性
- 305 様態の原則の利用方法
- 306 物の可能性の前提要件とは
- 307 可能性の概念と〈関係〉のカテゴリー
- 308 幻想にすぎない概念
- 309 物の可能性の条件
- 310 可能性は概念だけから認識できるか
- 311 物の現実性の前提要件
- 312 知覚の先行の必要性、磁力の実例

観念論への論駁

- 313 不確定性を唱える観念論と独断的な観念論
- 314 自己の現実存在の意識と外部の事物の現実存在の結びつき
- 315 コギトと時間
- 315n 外的な事物の現実存在についての意識の証明
- 316 〈わたし〉の観念
- 317 夢想と現実
- 318 必然性にかかわる自然の四つの原則
- 319 可能性、現実性、必然性の領域
- 320 この問題の性格
- 321 前提要件という語の意味
- 322 原則と前提要件
- 322n 現実性という概念の働き

原則の体系についての一般的な注

- 323 カテゴリーと総合命題
- 323n 運動と静止
- 324 カテゴリーと直観——関係の三つのカテゴリーを実例として
- 325 自己認識の可能性
- 326 結論の要約

第三卷

第三章 すべての対象一般を感覚的な存在（フェノメノン）と 叡智的な存在（ヌーメノン）に区別する根拠について

- 327 真理の島と仮象の国
- 328 超越論的な研究の効用
- 329 超越論的な使用の定義
- 330 カテゴリーの使用の条件
- 331 カテゴリーとその実在的な可能性
- 331n 論理的な可能性と実在的な可能性
- 332 純粋知性概念の適用方法と原則の適用対象
- 333 存在論の虚妄
- 334 図式の必要性
- 335 カテゴリーの利用の条件
- 336 感覚的な存在と叡智的な存在
- 337 叡智的な存在についての大きな誤解
- 338 〈知性的な直観〉
- 339 積極的な意味と消極的な意味での〈叡智的な存在〉
- 340 思考の〈深さ〉と〈広さ〉
- 341 不確定な概念としての〈叡智的な存在〉
- 342 知性的な直観の可能性
- 343 叡智的な世界の概念の誤用
- 343n 知性的な世界という語の誤用
- 344 認識の条件の再確認
- 345 読者への挑戦

付録 知性の経験的な使用と超越論的な使用の混同によって生まれる 反省概念の両義性について

- 346 超越論的な反省の役割
- 347 超越論的な反省と論理的な反省
 - (一) 同一性と差異
- 348 数的な同一性の原理
 - (二) 一致と対立
- 349 効果の相殺
 - (三) 内的なものとの外的なもの
- 350 引力と斥力
 - (四) 質料と形式
- 351 この二つの概念の三つの定義

反省概念の両義性についての摘要

- 352 超越論的な場所論
- 353 超越論的な場所論とカテゴリーの違い
- 354 超越論的な両義性とは
- 355 ライブニッツとロックの誤謬
- 356 ライブニッツの第一の誤謬——同一と差異
- 357 ライブニッツの第二の誤謬——一致と反対
- 358 ライブニッツの第三の誤謬——内的なものとの外的なもの
- 359 予定調和説
- 360 ライブニッツの第四の誤謬——質料と形式
- 361 物自体は知るべくもない
- 362 物自体を認識できないという嘆き
- 363 現象の重要性
- 364 概念の使用における制約
- 365 反省の両義性の原因を究明する作業の効用
- 366 ライブニッツの体系が依拠する原則
- 367 〈不可識別者同一の原理〉の欠陥

第三卷

368 概念における論理的な対立と直観における実在的な対立

368n 無効な抜け道

369 〈叡智的な対象〉の定義

370 〈超越論的な対象〉の位置

371 誤謬の原因

372 〈対象一般〉の概念

373 思考物

374 欠如としての無

375 想像物

376 否定的な無

377 無の概念の表

378 無の概念の説明

補遺 初版の異稿（第二版では段落336から339）

N01 感覚的な世界と叡智的な世界

N02 叡智的な世界

N03 超越論的な対象

N04 カテゴリーの役割

N05 〈何かあるもの〉

N06 知性による直観の可能性

N07 超越論的な客体とヌーメノンの違い